

国際ロータリー第 2540 地区

週報 かたがみ

潟上ロータリークラブ

2023-24 第 29 号

会長 安井 信英

第 2698 例会

2024/2/6

「ブルーメッセあきた」レストラン 2 階



世界に希望を生み出そう

◇13:00 点鐘

◇2 月結婚記念日 菅原文克会員、菅原全会員、沢井大輔会員 以上 3 名に花贈呈

◇会長の時間

業界のことを話します。今朝のさきがけ新聞の経済欄に脱酸素、水素エネルギーについて載っていました。我々の業界としては脱炭素とは言わず、あくまでもカーボンニュートラルです。炭素中立です。これは Co2 排出量と吸収量を同じくすることです。

以前、佐々木松彦会長の時に機の話がされていました。Co2 がないと木や植物が育たないし、光合成もうまくいかないと言っていました。地下から彫り上げるエネルギーはダメと言われていました。エネルギーでコストが一番安いのが石炭ですが燃やすと Co2 が一番多く出る。ガスも地下から汲み上げ圧縮すると液化天然ガスとしてなかなか使いやすい。石油は液体なので運びやすいし、精製しやすいし取り扱い易いので全世界で重宝している。昔は埋蔵量に限界があると言われていましたが、今はあと 100 年は取れるのではないかという世界が現状です。

水素エネルギーに各社が力を入れています。水素自動車とは水素を直接燃やすのではなく FCV という燃料電池車ということで水素を使うのです。水素は使い勝手がものすごくいいのですが、作る、貯める、運ぶというのが非常に厄介なもので、この三つが解決すれば使い道はいくらでもあるし Co2 を出さないのも非常にいい。水素は水に強力な電気を与えると水素ができる。自然エネルギーで電気を作り水素を作るそれを燃料にして車を走らせる。それが結局無駄でしょう。という話があります。

究極のエネルギーは電気ですが、二次エネルギーとして作らなければいけない。

今後電気自動車が増えてきます。充電器はまだ不十分で車が先か充電設備が先か？
今は燃料的にいいのはプラグインハイブリットですが車両価格は高い。25 km くらいは電気で走りあとはガソリンで走る。月に 600 km 走るとすると平均で 20 km なのでほぼ電気しか使わない場合も考えられます。日本の基準は 2035 年までに電動車のみとする。ガソリン単体の車は作らない。2050 年でカーボンニュートラルをゼロにするというのが目標になっています。いま合成燃料を作ろうとしています。Co2 と水素を使って液体のガソリンを科学的に作るというのが 2028 年頃まである程度製造ができるといわれています。それをガソリンに混ぜて排気ガスを減らすことができる。
いずれにしてもエネルギー問題についてはいろんなところで進んでいます。

◇幹事からの報告・連絡等 特になし

◇各委員会より 無し

◇ニコニコ 無し

事務局：秋田県潟上市昭和豊川竜毛字山ノ下 1-1 昭和総合開発株式会社 内
(ブルームッセあきた 道の駅しょうわ)

幹 事：佐々木徹 E-mail t-sasaki@mutsumi-ken.co.jp